

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | | |
|------|---|----------|
| 対象部局 | 統括部局：学長室 | 担当部局：学長室 |
| 大項目 | 0 理念・目的 《全学的な視点》 | |
| 中項目 | | |
| 小項目 | 0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 | |
| 要素 | 理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応 | |
| 小項目 | 0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。 | |
| 要素 | 構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法 | |
| 小項目 | 0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 | |
| 要素 | | |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|---|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 関西学院大学が設立された建学の理念・ミッションを再確認し、その今日的展開として「ミッションステートメント」を宣言し、本学の教育・研究などあらゆる活動の指針とする。 | →「ミッションステートメント」の策定及び宣言 | A | A | A | A | A |
| 2. 本学はその理念とするキリスト教主義にもとづいた特色ある教育研究をもって社会に寄与するために、「目指す大学像」を掲げ、その実現に向けた実施計画を策定する。 | →「目指す大学像」にむけた実施計画の策定 | A | A | A | A | A |
| 3. 「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」を学内において共有し、学外に公表する。また、その浸透・認知のために具体的施策を実施する。 | →①学生及び教職員における「ミッションステートメント」、「目指す大学像」の浸透度 ②卒業生における「ミッションステートメント」等の認知度 | B | B | B | B | B |
| 4. 建学の理念等の学内外における浸透度・認知度を測定する体制を整備する。 | →ミッションステートメント等の浸透度、認知度を測定する手段の整備と調査の実施 | D | D | D | D | D |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標1 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 策定された「ミッションステートメント」をHP等に公表し、またその内容を記したKGリーフレット(MISSION & IDEALS)を作成し、全教職員に配布するなどして(2010年4月)、その内容の確認に努めた。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学の構成員に「ミッションステートメント」の存在を周知させることができた。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「ミッションステートメント」を本学のあらゆる活動の指針とすべく、さらにその周知に努めるとともに、その内容に関する理解を深めていくための施策を講じていきたい。 | ☆ |
| | | その他 | |
| | | | ☆ |
| 目標2 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「目指す大学像」の中心的内容である「垣根なき学びと探究の共同体」の実現に向けて、まずはその理念に関して共通理解を得るべく、その共同体の具体的なあり方を示す文書「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」の作成に取り組み、2000年に初版を公表し、2013年3月にその改訂版を完成した。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本文書の作成によって、「目指す大学像」の具体的内容が明確になり、その理念を共有することが可能になったが、より広範に共有されるように取り組む必要がある。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か この文書がより広範に周知・共有され、その内容について理解が深められていくように努めていきたい。 | ☆ |
| | | その他 | |
| | | | ☆ |
| 目標3 | B | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「ミッションステートメント」を記した前述のKGリーフレットを全教職員に配布した他、「ミッションステートメント」の本文及び解説を記した冊子『輝く自由』を作成し、2011年度以降、学生に配布している。また、「目指す大学像」の根本理念である「垣根なき学びと探究の共同体」のあり方を示した前述の文書「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」を作成し、この文書の周知に努めてきた。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「リーフレット」や『輝く自由』の配布により、「ミッションステートメント」については、学内で認知されるようになってきている。一方の「目指す大学像」については、現時点ではそれほど認知されるに至っていない。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」の周知・浸透に向けて、前述の文書の配布する等、様々な方策を講じていきたい。 | ☆ |
| | | その他 | |
| | | | ☆ |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標4 | D | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「ミッションステートメント」等の建学の理念の浸透度、認知度を測定する手段は現時点では整備されておらず、具体的な調査も実施されていない。僅かに高等教育推進センターにより実施されている「カレッジ・コミュニティ調査」の中にスクールモットーの認知度を問う質問項目があるのみである。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か | |
| | | 「ミッションステートメント」をはじめとする建学の理念の浸透度、認知度を測定する手段を早急に整備し、調査を実施する必要がある。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か | |
| | | 建学の理念の浸透度、認知度に関わる調査の実施に向けて、その具体的な手段・方法について検討を進めていきたい。 | ☆ |
| | | その他 | |
| | | | ☆ |
| 備考 | | | ☆ |